



What ISIT?

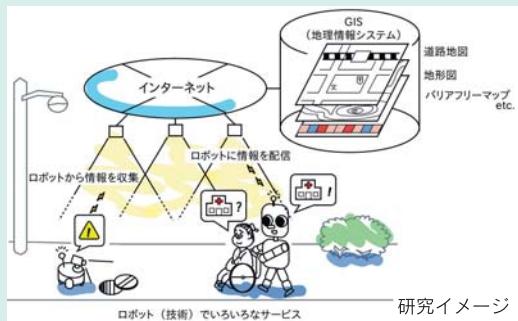
ISIT:Institute of Systems & Information Technologies/KYUSHU

プロジェクト
採択情報

「次世代ロボット知能化技術開発プロジェクト」採択 ロボットGISの研究に着手

経済産業省の公募プロジェクトである平成19年度「次世代ロボット知能化技術開発プロジェクト」の一つに、「環境情報を共有するロボットGISに関する知能モジュール群の開発」が採択されました。これは、ISITと福岡市のベンチャー企業である有限会社環境ジーアイエス研究所が共同して提案したものです。

同プロジェクトは、将来の少子高齢化による労働力不足などに対応するため、より幅広い用途を持つ人間共存環境での次世代ロボット開発を目的として、その知能化技術開発を推進することを目指しています。今年度から始まったこのプロジェクトに採択された機関のほとんどが大学や大企業、国の研究機関でしたが、その中でベンチャー企業と共同して提案し採択されたものはこの1件だけでした。



今回採択された提案の研究開発内容は、

- 1.ロボットが屋外での活動範囲を飛躍的に広げる技術
- 2.ロボットがより賢く活動できるための技術
- 3.ロボットのための地図データをより安価に、
より広域に提供するための仕組み

です。人間を対象としたカーナビゲーションのように屋外で活動するロボットに対して地図情報を提供する共通プラットフォームの研究は世界的にも例がなく、将来この研究成果を標準として、ロボットのGIS情報の利活用が進むことを期待しています。

ISITと環境ジーアイエス研究所はこうした一連の技術開発によって、近い将来、完全自動化されたロボットによる宅配サービスや清掃サービス、高齢者の移動支援、道案内サービス、夜間の警備サービスなどが実現され、普及することを目指します。

また、去る12月25日、福岡市の吉田市長の定例記者会見で今回のプロジェクト採択をご紹介いただきました。ISITの牛島和夫所長と環境ジーアイエス研究所の荒屋亮社長も同席し、吉田市長による採択プロジェクトの概略紹介の後、荒屋社長が詳細について説明を行いました。その後の質疑では、メディアはもとより吉田市長ご自身からも質問をいただくなど、大変興味を持っていただきました。

ISITと環境ジーアイエス研究所は、来年度よりアイランドシティ中央公園内の実験住宅周辺で車いす型ロボットを使った実証実験を重ねていく予定です。



※GIS:地理情報システム…地理的位置を手がかりに、位置に関する情報を持ったデータ(空間データ)を総合的に管理・加工し、視覚的に表示し、高度な分析や迅速な判断を可能にする技術

有限会社環境ジーアイエス研究所…地理情報技術を用いた環境評価やシステム開発に強みを持つ大学発ベンチャーで、福岡市創業支援室の支援事業の認定(平成17年)を受けて、ISITと同じ福岡SRPセンタービルを拠点として活動

第22回研究顧問会議

【研究顧問】(出席者 五十音順)

有川 節夫 氏 九州大学理事・副学長
杉野 昇 氏 前 日本大学大学院教授

長田 正 氏 福岡市顧問(IT戦略担当)
三井 信雄 氏 イグナイト・グループ マネージング・パートナー



牛島 本日はお集まりいただきましてありがとうございます。ISITはもうすぐ満12年を迎えます。研究顧問の皆さま方には節目節目のご助言いただいておりますが、今回もよろしくお願ひいたします。

【ISITの活動について】

研究所次長:森光 武則

~ISITは誰のための研究所か?~

森光 ISITは福岡市から年間約2億5千万円の補助金をいただいているのですが、ISITの存在意義を考える上で、今回は「ISITは誰のための研究所か」という切り口で考察してみました。



杉野 アメリカの研究所には公的機関からの補助金はあまりありませんが、日本の研究所の資金には2通りの部分があって、補助金的な固定部分、つまりお金があるから安心して研究に取り組める部分と、公募や受託などにより研究資金を獲得していく部分があり、そのバランスを考える必要があります。公的資金をいただいているISITだからこそできる、あまりお金にならないけれど重要な研究もあると思います。そう言った意味では、受託研究や競争的資金の獲得というものを少なくした方がいいのではないかという考え方もある。ISITの本質を考えることが必要ですね。

有川 研究する立場からすると、非常に有り難いご意見です。九州大学でも毎年補助金を減らされ、研究によって獲得しなければならない部分が多くなっています。これらの資金が無いとまともな研究ができなくなっています。

三井 最初の3年間くらいは補助金があつても当然でしょうが、アメリカでは、「それ以降は補助金はいらない、自分たちで獲得した研究資金で研究を行っていく」ということが研究所の独立性に繋がると考えています。独立性を持っていることが、良い研究をやっているという評価に繋がる。ISITについては、創立以来福岡市から毎年2～3億円の補助金をいただいてきたが、果たしてそれが良いことだったのでしょうか。

森光 ISITとしては、補助金をいただいているからこそ、福祉や生活支援などの民間ではビジネスモデルになりにくい研究開発ができる。つまりこの資金を文字通り“活用”していると考えています。



三井 「補助金」という言葉を使うからわかりにくいのかもしれません。福岡市が、福岡市に役立つ研究のために資金を出していると考えているのだったら、補助金という言葉もわかりますが、ISITが「福岡市は何のためにお金を出しているのか」を考えるのはおかしいのではないでしょうか。「補助金」という言葉があるから、研究活動が制約されているように感じます。



牛島 福岡には市立大学がありません。他の政令指定都市が市立大学のために支し出している資金と同じ目的と考えていただくといいかもしれません。

有川 福岡市からお金をもらっているなら、まずは福岡市のために研究をやっていると考えていればいいと思います。研究している過程で、福岡市以外の周辺地域・企業にもいい影響がでたという考え方をすればどうですか。

杉野 私立大学と比べると面白いですね。学生からの授業料だけで大学を運営していると仮定すれば、授業料の見返りとして学生に研究成果を還元して育てなければならない。先生は教えるために研究をしていますが、企業からお金をもらって研究する部分もあります。問題なのは、授業に熱心な先生は研究をあまりやりませんし、逆に研究に熱心な先生は授業のレベルが下がる。また社会活動など外の仕事ばかりやっている先生は授業にも研究にも力が入っていない。この授業・研究・社会活動の三つの比重が重要なのです。これはISITが福岡市に対する貢献と研究開発、そして民間企業への貢献を考えているのと似ていますね。「誰のための研究所か」ということをあまり考えなくてよいのではないかでしょうか。大学の先生は、学生から補助金をもらって教えているとは考えていないでしょう。

有川 大学は基礎研究をやらなければならぬ場です。国が国立大学を持っているように、自治体でも公立大学を持っているところがあります。たまたま福岡市には市立大学がありませんが、自治体も基礎研究にお金を費やすなければならないということになっているかもしれません。福岡市はISITの他にも研究所を持っていますが、応用研究だけすることを望んではいないと思います。基礎研究をサポートするときに補助金という名目を使っているだけではないでしょうか。

森光 例えばLSIのように基礎研究は地域の競争力の源泉になってくると思います。大学がその競争力の源であるのは間違いないのですが、基礎研究力がその地域に育つてくるかどうかは、やはり自治体が考えなければならないことでしょうね。

~公開実験・報道について~

森光 今年もアイランドシティで行ったロボットタウンの公開実験のように、多くのメディアでISITの活動を報道していました。

三井 公開実験というのはものすごく時間をとられるし、研究所によってはもっと本来の研究をやれと、対外的な研究公開を嫌うところが多いのですが、その点ISITはどうなのですか。

森光 ネットワーク関連技術や生活情報支援技術などの研究は、実環境でも実験を行わないと意味のあるデータが取得できないので、うまく公開実験と研究とがマッチしています。PRのためだけの実験ではありません。

有川 新聞記事の例ですが、九州大学の先生が、ある記事の代わりに広告を出すとするとどのくらいのお金がかかったかを試算されたことがあります。例えば、今年報道されたISITに関する全ての記事・ニュースを、ISITを宣伝するために使ったと

考えると数億円かかったでしょう。ISITの名前が知られていないと福岡市も補助金を出す意味がないですし、優秀なスタッフも集まらないでしょう。つまり報道されるということは、価値があることなのです。

三井 それでは、ISITの研究者は自分の研究をどういう形で見せていくのかを考えていく必要があるのですね。

【他自治体の研究所について】 プロジェクト推進部:駒澤 光

駒澤 平成18年度の研究員1人あたりの科学研究費補助金(以下、科研費)採択件数は、他地域の研究財団と比べてみると、上位5番目に位置します。金額的にはライフサイエンス分野などとは比較になりませんが、件数だけをみるとかなり良い数字だと思います。

有川 日本の場合は特定の研究者に資金が集まる傾向にあります。また省庁によっては、基礎研究分野では公募資金が獲得しにくくなっています。それゆえ研究を下支えする資金として科研費を獲得することは重要になってきています。

三井 アメリカの大学では、公的機関からいただく資金に比べ、民間から出てくる資金は膨大にあります。日本の大学・研究所ではどのような比率なのですか？



有川 税制の問題もあって、日本の大学には民間からはあまり資金が出ていませんでした。むしろ民間はアメリカの大学に委託していたくらいです。しかし最近では少し変わってきており、九州大学では科研費で獲得する資金と、民間から獲得する資金がほぼ同じくらいになっています。

杉野 この資料で、ISITは小さな研究所だけれどよく頑張っているというのはわかります。しかし何を研究するのかが一番大きな問題なのです。日本という国は、この十年間弱くなっていると思いませんか。ましてや、産業界において世界のトップを狙える位置にいないのはIT産業だけです。ISITも、日本のIT産業が世界のトップを奪う一助になりませんか。たとえば携帯電話のように、社会のニーズは一番先端的なところに目を向けます。step-by-stepも大事でしょうが、段階的に研究を進めていくだけでは、市民感覚から遅れてしまうかもしれません。補助金があるということは、ある程度安定した基盤があるということですから、先端的な研究をするというフェーズを考えてもいいと思います。

長田 ISITはオーソドックスな方法で研究を進めてきました。ISITのような小さな研究所では、最先端を追っていくような研究活動は難しいでしょうね。

三井 長い間ISITを見ていますが、先端的・独創的なものばかり追いかけているわけではないことはわかっています。また東京から離れた土地でそれなりに人材も育ち、国内外の研究機関と交流活動を盛んに行なうなど成功している研究所だとも思っています。しかし12年も経っているわけですから、そろそろ「これはISITがやった」というヒットが欲しいですね。10年も過ぎると、ヒットがあることも重要なってくるのではないかでしょうか。研究テーマをもっと絞つていった方がいいかもしれません。

森光 福岡では、知的クラスター創成事業などでLSI関係の技術者や知財がこの地域に集まっていますので、それらを有効に活用していくことも必要だと考えています。後ほど第1研究室の村上室長から「カーエレクトロニクス・プロジェクト」についての報告がありますが、ISITが社会から本当に認められているかどうかは、競争的研究資金のような公的資金だ

けではなく、民間からの受託をどれだけ獲得できるかが一つのバローメータになると思います。

【産学連携コーディネート事業】 産学連携コーディネーター:坂本 好夫

坂本 産学連携コーディネート事業の一環として、福岡市の産学ジョイントプラザからの受託を受け、オープンソースソフトウェア(以下、OSS)に関する情報交換の場として「福岡 OSS研究会」を立ち上げました。

三井 オープンソースというのは、私にも経験がありますが、簡単に考えてはいけません。任天堂のWiiやニンテンドーDSなどもOSSを使っていますが、たとえばゲームのOSSを研究するというように具体的にターゲットを絞って研究するのなら短い時間で成果が出るかもしれません。WindowsやLinuxなどの世界の大きな流れに対抗していこうという研究は、ISITなど地方の研究機関が取り扱うべきではない。

杉野 OSSは少し下火になっているのではないかですか。今後 OSSに取り組んでいくとしても、三井さんがおっしゃるようにテーマを絞り込むことが重要だと思います。

坂本 研究会を実施することにより、人のネットワーク構築などコーディネート事業に役立っています。研究会で知り合った人たち同士で提案し公募採択された例もあり、実質的な効果も出ています。

【カーエレクトロニクス・プロジェクト】 第1研究室長:村上 和彰

村上 ISITでは、第1研究室に加えて仮想的な組織であるカーエレクトロニクス・プロジェクト推進室を新設しました。このプロジェクトのベースとなるのは、福岡知的クラスター創成事業の研究成果である再構成可能プロセッサ技術(Redefis技術※1)と自動最適化技術(SysteMorph技術※2)という2つのシステムLSI技術です。これらを用いた次世代カーエレクトロニクスの中核となるECU(※3)プラットフォームの実現にむけて、自動車およびその関連産業とプロジェクトの進め方について協議しているところです。

三井 Redefis技術というのはアイデアとして面白いですね。自動車関連産業はアイデアを売り込むのに非常に時間がかかりますが、売り込むことができれば、非常に堅実な企業でもあるし、仕事はやりやすいと思います。しかしながら、慣れていらっしゃる半導体産業との共同研究とはスタイルも違うし、リコールへの対応など考慮しなければならないこともありますから、私も研究顧問として応援しますよ。ぜひ頑張ってください。



長田 Redefisという技術は自動車関連産業に適した技術だと思いますが、カーエレクトロニクス以外への応用は考えていますか。

村上 現在、情報通信機器メーカーに評価を依頼していますし、画像処理や音声処理・暗号化などの分野でも評価していただいているところです。

牛島 自動車関連産業はリコールの多発が問題となっていますが、共同で研究開発を進めていく上では、それに対するメンテナンス技術の問題も併せて考えていく必要があります。本日は貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。

(※1)Redefis技術…システムLSIの製造後にも、再構成可能な論理回路技術により、開発が容易なCプログラムを用いてシステムLSIの設計を可能にする技術

(※2)SysteMorph技術…システムLSI上で実行されるアプリケーションの動作を観察し、その使われ方、振る舞いに応じ、システムLSIを自動的に最適化可能とする技術

(※3)ECU…「Engine Control Unit」の略で、自動車のエンジンを総合的にコントロールする電子制御装置

研究トピックス

ロボットタウンプロジェクト 『病院内移動支援実験』デモ実施

<平成19年12月25日>

ISIT第3研究室では「人に優しいインターフェース環境の実現」をテーマとし、ITを活用して、より快適な生活をおくれるようになるための技術に関する研究開発を進めています。その一環で九州大学大学院の長谷川 勉教授が研究代表を務める「ロボットタウンプロジェクト」に参画し、九州大学や企業と共に研究を行っています。

このプロジェクトの中で、ISITは九州大学病院と共に「病院内移動支援実験」を行っています。去る12月25日、実際に九州大学病院の病棟内でデモを行いました。



この実験の目的は、病院環境内に配置された多数のセンサや電子タグを用い、患者や医師などの医療従事者ほか、彼らを支援する車いすロボットや案内ロボットなどに必要または有用な情報を提供することで、より安心・快適な病院生活を実現することを目指すものです。

この病院実験の責任者である九州大学病院先端医工学診療部の橋爪誠教授は「多くの患者様の複雑な検査計画を間違わないように実行するのには、あまりにも人手が不足しています。このロボットは、人手不足の解消と患者様に満足していただける医療を行う上で大きな力になると思います。」と病院現場での実用化に向けて期待を述べられました。

ISITでは、今後とも九州大学病院と共に「未来の病院」実現に向けた研究開発を行っていく予定です。

REPORT 2.

台湾情報セキュリティセンターおよび 国立台湾科技大学管理学院との研究交流に関する覚書(MOU)の締結について

<平成19年11月22日>

ISITの第2研究室では、台湾情報セキュリティセンター(TWISC)および国立台湾科技大学管理学院(NTUST)との間で、情報セキュリティ分野での研究交流の覚書(MOU)を締結いたしました。このMOUは、情報交換、相互研究訪問、共同セミナー、国際共同研究等が主な活動内容となっています。

今回を含めたISITのセキュリティ分野での海外研究機関との研究交流は以下の通りです。

● 研究交流の覚書(MOU)締結

- | | |
|-----|-----------------------------|
| 韓国 | ・韓国電子通信研究院(ETRI) |
| | ・韓南大学 セキュリティ技術研究センター(SERC) |
| | ・成均館大学校(SKKU) |
| 中国 | ・清華大学 情報システムセキュリティ研究室(ISSL) |
| インド | ・インド暗号学会(CRSIND) |
| 台湾 | ・台湾情報セキュリティセンター(TWISC) |
| | ・国立台湾科技大学 管理学院(NTUST) |



● 共同研究協定(RCA)の締結

- | | |
|--------|--------------------------------------|
| シンガポール | ・シンガポール国立インフォコム研究所(I ² R) |
|--------|--------------------------------------|

国際的に連携したインターネット環境を実現する上で、安全なネットワークを構築するための情報セキュリティ技術分野は、国際的標準化に向けた活動が活発になっています。それに伴って研究機関は多くの国々と研究交流を進めていくことが不可欠となっています。ISITでは今回の台湾情報セキュリティセンターおよび台湾科技大学管理学院とのMOUを通して、アジアの研究機関との更なる研究交流を推進してまいります。

また、本年3月にも中国の大連理工大学 ソフトウェア学院(SSDUT)とMOUを締結する予定です。

・**台湾情報セキュリティセンター(TWISC: Taiwan Information Security Center)**…台湾内の大学および研究所が保有する知的資源を集約するために、2005年に設立。台湾内に3カ所の拠点あり。台湾ではTWISCが中心となって、情報科学研究所、中央研究院、国立台湾大学、国立台湾科技大学、国立交通大学、国立成功大学などを含む多くの大学・研究機関と情報セキュリティの分野での産・学・官の連携を促進させている。

・**国立台湾科技大学 管理学院(SCHOOL OF MANAGEMENT, NTUST: School of Management, National Taiwan University of Science and Technology)**…国立台湾科技大学の管理学院は1998年に設立され、現在は、産業部門、ビジネス管理、情報マネジメントやファイナンス関係の卒業者で構成。製造プロセスの研究や科学的マネジメント方法の応用などによる専門的マネジメント技術の習得に焦点を当てた、ビジネスとマネジメントでの多くの分野にわたる優れた教育コースを持つ。

「九州地域組込みシステム協議会」設立総会開催

＜平成19年11月29日＞

九州地域において自動車産業や半導体関連産業の拡大を背景に、組込みシステム関連のビジネス拡大が期待されています。現在でも北九州市のカーエレクトロニクス人材育成の動きや福岡県のシステムLSI設計技術者・企業の集積、熊本県の半導体等の量産拠点など個々の強みはありますが、地域としてまとまつた組織や取り組みはありませんでした。

そこで、九州経済産業局の提唱のもと、組込みシステムに係るネットワーク形成、人材育成、競争力・技術力の強化及び共同の販路開拓等を目的として、「九州全域」及び「産学官」が一体となつた組込みソフトウェアの中核組織、「九州地域組込みシステム協議会」が設立されました。

11月29日にSRPホールにて設立総会が開催され、九州各地から約200名の関係者が参集しました。総会では、ISITの牛島和夫 研究所長（九州産業大学情報科学部長/九州大学名誉教授）が協議会の会長に選任され、挨拶の中で九州地域の組込みシステム関連産業の更なる発展に向けての抱負を語りました。

またISITが「九州地域組込みシステム協議会」の事務局を担当することになりました。



「JaSST'07 Kyushu」開催

＜平成19年11月2日＞

去る11月2日、SRPホールにて「ソフトウェアテストシンポジウム2007 九州(JaSST'07 Kyushu)」(片山 徹郎 実行委員長)が開催され、150名を超えるテスト関係者が九州地域を主に全国から参加しました。ソフトウェアテストシンポジウム(JaSST)はNPO法人ソフトウェアテスト技術振興協会が2003年から東京、2005年から大阪、そして2006年からは札幌でも開催してきたもので、九州での開催は初めてとなります。

ソフトウェアテスト技術は、現代の高度情報化社会を支えるソフトウェアの信頼性を確保するための重要な実践的な技術です。JaSSTは、社会に果たす役割がますます重要となるソフトウェアテスト技術に関して、より活発な議論や人材育成、情報交換を行う場として活用され、東京では千人規模、大阪、札幌でも数百人規模のイベントとなっています。ISITでは九州地域でのソフトウェアテスト技術に関する人材育成、情報交換が必要と考え、実行委員会のメンバーとして「JaSST'07 Kyushu」を共催いたしました。

シンポジウムに先立ち、加藤 大受氏(日立製作所)による「テスト設計のとっかかり」と題した実践に役立つチュートリアルを実施しましたが、実行委員会の予想をはるかに上回る参加申し込みがあり、あらためてソフトウェア



テスト技術者育成の必要性を感じました。

続くシンポジウムでは、柴田 浩氏(デンソー)による基調講演をはじめとして、佐藤 康之氏(大分シーアイシー)、小菅 貴彦氏(日本電子専門学校)、二上 貴夫氏(東陽テクニカ)による招待講演がありました。また片山実行委員長を司会者に4人の講師が参加者から事前にいただいた悩み事について答えていく「テストなんでもお悩み相談」と題したパネルディスカッションも実施されました。

ISITでは、ソフトウェアテスト技術に対する認識を高め、ソフトウェアの品質を向上させることで高度情報化社会の発展を目指すJaSSTの活動を、今後とも応援してまいります。

「オープンソースカンファレンス2007福岡」開催

＜平成19年12月8日＞



ISITでは福岡産学ジョイントプラザからの受託事業の一環として「福岡OSS研究会」を立ち上げておりますが、去る12月8日、アスクビル(博多)にて開催された「オープンソースカンファレンス2007福岡(OSC2007 Fukuoka)」を、実行委員会の一員として共催しました。

OSCでは、オープンソースに関する最新情報の提供として、東京をはじめ全国各地でオープンソースコミュニティや企業・団体による展示とセミナーを開催していましたが、今回のOSC2007 Fukuokaが九州地域では初めての開催となり、会場には約250人が参加しました。

展示会場では、大手情報関連企業のほか地元企業を含む合計23社が参加して、オープンソースの取り組みや最新情報を紹介しました。また大小5つの会場では計26のセミナーが開講され、朝から夕方まで展示会場・セミナー会場共に熱気があふれていました。

New Staff

新スタッフ紹介

(1月末現在、ISITスタッフ総勢37名)

所属 役職 氏名
事業部 部長代理 岡部 浩一

はじめまして、岡部浩一（おかべ こういち）と申します。このたび株式会社西日本シティ銀行から出向して参りました。15年近く銀行の営業店で勤務してきましたが、今回まったく未知の仕事をすることになりました。当財団のスタッフを見回したところ、そぞうたる人材が結集していることに驚き、自分でも戸惑っているところです。



岡部 浩一

私が所属する事業部は主に当財団の広報、講演会企画を行なう部署であります。今までとは違い営業目標の数字に追われることはないのですが、なにせ今までITに関心はあるものの深い知識は持っていないため職場内には聞きなれない用語が氾濫しており、連日ネットや書籍で検索確認と奮闘しております。

さて金融機関出身の私ですが、10年前直方支店で営業担当をしていたころ、融資開拓で様々な企業を訪問させてもらいました。その中には既存の業態以外にITを活用した事業を始めようと模索しているところもいくつかございました。しかし中小企業では捻出できる開発費には限界があり、資金調達に頭を抱えている社長様もおられました。今まで日本の金融機関はその企業の決算書の中身（利益の実績）と融資額に見合う保全（担保）を重視してきたため、優れた技術内容だとしてもまだ研究の段階で利益を生んでいない先に大きな融資をするというのはなかなか困難なことありました。ようやくこの頃からだったでしょうか、産学官が一体となりIT分野の成長を促そうと大学との共同研究、該当する企業に対する制度融資や基金創設などが始まりました。しかし融資の支援制度の内容は十分とはいえない難く、融資金額や返済条件面等で必ずしも企業側は満足できるものではなかったかと思います。

最近日本経済の世界的地位が没落したと連日のように報道されていますが、もともとわが国は狭く資源のない国であるので、知恵を出して新しく価値の有る物を作ることで生存していく技術立国を目指すしかなく、今後も国の発展を望むならば成長分野にはもっと積極的な投資をしていく必要があります。特にその基盤とも言える情報技術は非常に重要であると誰しも思うはずです。公的支援の増加も必要ですが金融機関も、開発に何年かかるのか、将来的に利益を生むのか、といったことを総合的に判断し、有用な研究には無担保で対応する等、利便性の高い新しい融資制度を作るべきではないかと個人的には思います。

本財団に在籍している間、より多くの企業の方々と交流を持ってご意見を聴かせていただき、IT業界の実状展望などを勉強して積み重ねたことを、微力ではございますが金融機関にフィードバックしていくたらと考えていますので、皆様どうぞ宜しくお願いいたします。

Welcome

サティヤム・コンピュータ・サービス一行ご来訪

1月23日、今春福岡市に進出予定のインドIT企業大手 サティヤムコンピュータ サービス リミテッド の Harsh Vardhan 日本地区統轄副社長ほか3名のスタッフがISITを訪問されました。

同社はインド大手IT企業の1つで、九州地区での人材発掘のため、インドのIT企業としては九州初となる本格的な「システム開発センター」を天神地区に開設する予定です。

Vardhan氏は、九州の優秀な人材と北部九州に集積している自動車産業に大変注目しており、人材開発にとどまらずISITなどの研究機関との共同研究の可能性を探りたいと述べされました。

福岡市がJETプログラムによりインド科学大学院大学から招致して、現在ISIT第1研究室で研究を行なっているプラディープ・ラオ研究員も同席し、ISITの研究開発体制について説明するなど、終始和やかな交流となりました。



ISITメールマガジンでは、ISIT主催の定期交流会や各種セミナーの情報、定期発行のお知らせ、現在公募中の情報など配信しております。
<http://www.isit.or.jp/magazine/form.html>よりお申し込みいただけます。

■発行■

財団法人 九州システム情報技術研究所 ISIT
Institute of Systems & Information Technologies/KYUSHU

〒814-0001

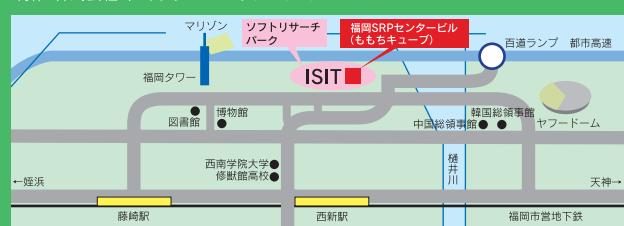
福岡市早良区百道浜2丁目1-22-707〈福岡SRPセンタービル（ももちキューブ）7F〉
Fukuoka SRP Center Building (Momochi Cube) 7F 2-1-22, Momochihama,

Sawara-ku, Fukuoka City 814-0001

TEL 092-852-3450 FAX 092-852-3455

URL:<http://www.isit.or.jp> E-mail:konyu@isit.or.jp

制作:株式会社 ドミックスコボレーション



R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています